

第18章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2008年1月現在32地点で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壇墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺跡遺跡第9地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、土地所有者より2007年3月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。本地点は、1994年10月18日に農地改良（1m以上の盛土等）に伴う試掘調査を行ない、池跡とみられる黒色土堆積や土坑らしき範囲と、大量の焼土や炭化物を確認している場所のうち、北側の約半分にあたる。このため申請者と協議の結果、建物部分の地盤に基礎を補強するための杭を打ち込むことから建物部分の本調査を実施した。

本調査は2007年5月22日から24日まで行なった。試掘調査で確認されている溝部分について重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、溝を検出した。表土から縄文土器片、近世陶磁器等が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。



第47図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保579	1979.4.3～4.21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群Ⅰ
2	苗間東久保573	1982.4.1～4.3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群Ⅲ
3	苗間東久保581	1984.7.20～7.21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後346-1	1989.11.15～11.25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群Ⅹ
5	苗間374-9	1991.8.28～9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群Ⅰ
6	苗間358-1	1991.9.21～12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	苗間東久保573-4	1992.10.20～11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草～中期	調査会報告5集
8	苗間357-1	(1994.9.20～9.27)	615	宅地分譲	落し穴、根切溝	町内遺跡群Ⅳ
9	苗間353	(1994.10.18)、 2007.5.22～24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅳ、市内4
10	苗間356-1	1994.10.31～11.2	999	宅地分譲	近世土壌墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群Ⅳ
12	苗間35-95	1995.9.25～10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群Ⅴ
13	苗間314-2	(1996.1.8～1.29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早～後期、陶磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	苗間360-1,362-2	(1996.6.3～6.12) 1996.6.18～7.11	2,178	個人住宅	礫群3、落し穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅵ
15	苗間362-4・5	(1996.6.3～6.12) 1996.7.12～8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群Ⅵ
16	苗間579-1	1997.11.10～12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期	町内遺跡群Ⅶ
17	苗間345-2・10	(1998.9.29～10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群Ⅷ
18	苗間345-3・4	(1999.5.26～6.24) 1999.6.26～8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝縄文後期土器、土師器	町内遺跡群Ⅸ
19	苗間神明後345-4	1999.8～9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早～晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後351-1	(2001.10.26～10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群ⅩⅠ
21	苗間東久保591-3,592-7	(2001.11.19～11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅠ
22	苗間373-5・8, 377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
23	苗間592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
24	苗間神明後346-1・2の一部	(2004.8.30～8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群ⅩⅡ
25	苗間339-1・2	(2004.9.22～10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群ⅩⅡ
26	苗間神明後354-2の一部	(2005.3.3～3.8) 2006.4.17～28,6.7～15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.23	696	新設道路築造 分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋甕2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間字東久保719-7, 720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築工事	溝2	市内遺跡群3
29	苗間570-1・2, 571-1・2,575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
30	苗間359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
31	苗間字神明後342-14 一部	(2007.2.19)、 2007.2.19～3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器、石器	市内遺跡群4
32	苗間字神明後340-17, 342-10・15,	(2007.2.25～3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ピット1、縄文土器	市内遺跡群4

(2) 遺構と遺物

①溝

溝は東から西に傾斜する地形に沿って延びる。上幅74～94cm、下幅25～40cm深さは42.3cm、東端底と西端底の高低差は33.4cmを測る。

②出土遺物 (第48図)

1から18は全て溝の覆土層出土である。1は角押文と沈線を施し胎土に大量の金雲母を含む阿玉台式土器である。2は口縁部無文帯。3は沈線文とR L縄文、4は横位隆帯で胴部はL R縄文を施す。5・6は地文R L又はL R縄文に沈線の懸垂文間を磨消す。7は無節L r縄文、8は単節R L縄文を施す。9は沈線文を施す。10・11は木口状工具による蛇行条線文を施す。

12は地文R L縄文に微隆帯と磨消しを施す。13は沈線文の間にL R縄文と磨消しを施す。2、7、8は勝坂式から加曽利E式。3～6・9～11は加曽利EⅡ式。12、13は加曽利EⅣ式である。14は瀬戸・美濃系陶器の志野皿で全面に長石釉、口径・底径・高さは推定で10.2×5.1×2.3cm。15は肥前系磁器の皿か碗で、轆轤成形で内外面に染付けを施す。16は陶器の碗で、轆轤成形に外面に黒色の釉薬で施文。17は瀬戸・美濃系陶器の燈火受付皿で全面鉄釉し内外面上部に煤が付着、口径・底径・高さは推定で10.9×5×1.6cm。18は在地産の瓦質土器で内面回転撫で調整、外面スダレ状刻印文を施す。

第38表 浄禅寺跡遺跡第30地点ピット一覧表

(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
1	方形	31×21	11×7	40.4
2	方形	30×28	10×8	33.3
3	楕円形	34×19	7×6	24.3
4	方形	28×22	10×9	24.0
5	方形	37×35	15×11	38.9
6	楕円形	35×27	6×5	29.5
7	不明	44×(34)	10×5	47.6
8	円形	38×37	14×8	49.7
9	楕円形	49×34	15×15	52.5
10	楕円形	30×20	8×7	29.5
11	不明	39×(36)	9×6	—
12	円形	55×45	24×16	38.5
13	不明	41×(24)	9×8	73.0
14	方形	29×27	19×12	73.4
15	不明	(25×20)	10×(10)	35.7
16	不明	49×(16)	22×4	24.0
17	円形	48×48	12×9	71.9
18	方形	39×37	11×9	78.6
19	方形	55×30	20×16	49.8
20	方形	33×31	15×10	38.2
21	方形	34×32	8×7	43.2
22	方形	45×33	17×15	47.3
23	方形	17×16	8×3	15.5
24	方形	19×17	8×5	30.2
25	不整形	83×59	9×5	52.4
26	方形	27×22	14×14	32.0
27	方形	25×22	16×13	22.0
28	円形	45×33	35×23	17.4
29	三角形	26×18	15×10	23.7
30	方形	35×29	10×8	55.9
31	三角形	23×21	12×8	25.3

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
32	方形	27×20	12×9	30.0
33	楕円形	55×38	25×19	66.3
34	方形	28×25	10×6	67.8
35	不整形	38×31	10×9	66.7
36	方形	20×19	8×3	29.2
37	方形	45×29	27×20	23.7
38	方形	22×19	9×4	37.6
39	不明	(26)×19	9×3	21.1
40	方形	30×21	8×7	38.4
41	方形	25×20	10×10	71.9
42	不明	95×(30)	52×(9)	27.2
43	方形	55×49	40×38	29.6
44	方形	27×27	8×6	52.4
45	方形	35×32	14×5	28.3
46	不明	26×25	9×3	52.0
47	方形	31×31	13×12	47.7
48	円形	31×30	12×10	47.1
49	楕円形	51×35	30×24	54.7
50	円形	28×26	10×5	20.4
51	円形	35×34	9×7	65.2
52	方形	47×46	10×4	26.9
53	円形	34×31	14×13	11.8
54	円形	42×38	18×16	9.3
55	方形	29×25	14×13	16.3
56	不整形	67×40	25×8	40.2
57	不明	70×(17)	50×(11)	25.0
58	楕円形	53×37	13×11	20.3
59	方形	80×78	47×42	65.0
60	不整形	98×64	13×7	51.5
61	円形	30×23	14×5	42.5

V 浄禅寺跡遺跡第31地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年1月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、南側に隣接する第27地点では縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘調査を実施した。試掘調査は同年2月19日から行ない、残土置き場の関係から調査区を東西に分け、初めに東側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。縄文時代の遺構が確認されたため申請者と協議を行ない、本調査に切り替え3月5日まで本調査を実施した。東側調査区に続き西側半分の調査し、縄文時代の住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ピット26基を検出、縄文土器・石器等の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 3号住居跡

【形状・規模・時期】調査区南側の第27地点寄りで、

2号住居跡の北約17mに位置する。

平面はほぼ円形を呈し、断面は僅かに掘り込みが確認できる程度で、表土層の下がほぼ床面といえる。

規模は4.2m×4.1m、深さは7cmを測る。

住居跡の主軸は埋甕1・2と炉を結ぶ線である。加曽利EⅢ期。

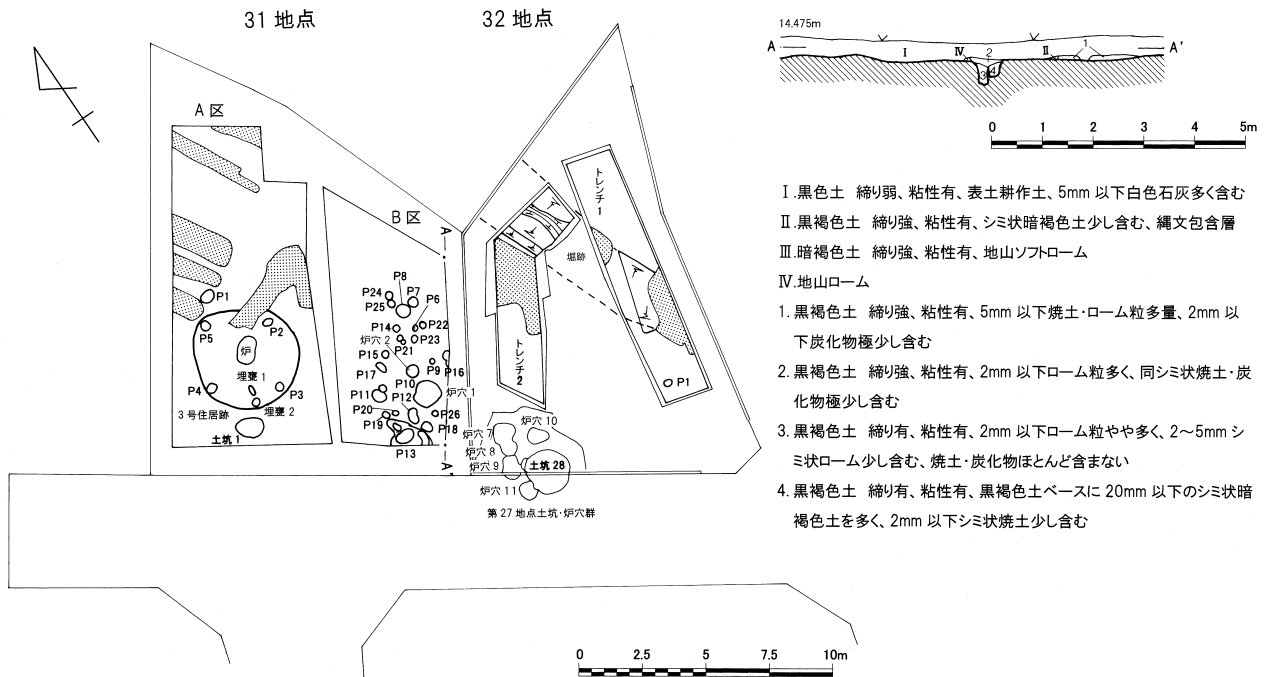
【炉】住居中央部に位置し平面は楕円形を呈する。覆土層に1mm大焼土粒を少し含むが焼土面はみられない。規模は確認面径110×73cm、底径90×62cm、深さ11.8cmで西側に深さ6cmの小ピットがみられる。

【埋甕1・2】住居内の西側、ピット1・2の間とピット3・4の間から炉を結ぶ線上に東西に並ぶ。

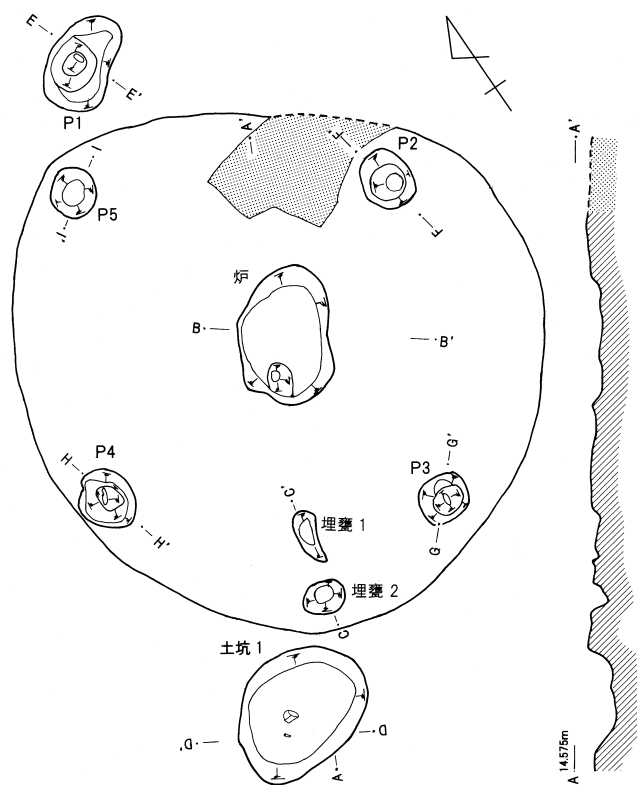
埋甕1は東側に位置し、底部を下にした正位置の状態で出土した。平面形態は楕円形で上端45×18cm、下端20×10cm深さ5.7cmを測る。

埋甕2は西側に位置し、底部を下にした正位置の状態で出土した。平面形態は楕円形で上端35×27cm、下端16×13cm深さ10.3cmを測る。

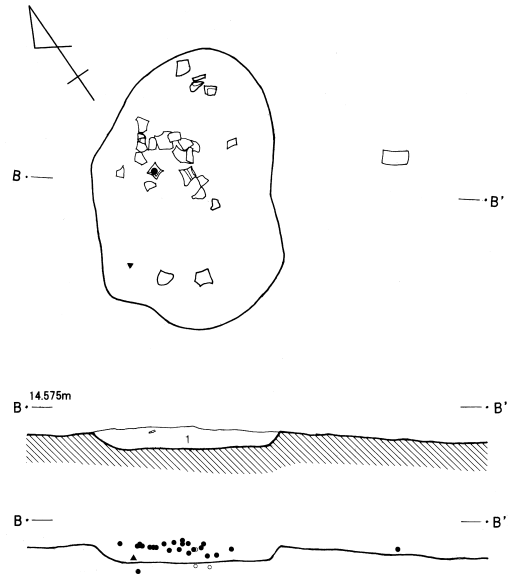
【柱穴】主柱穴は4本で、第39表浄禅寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表中のPN02～5である。



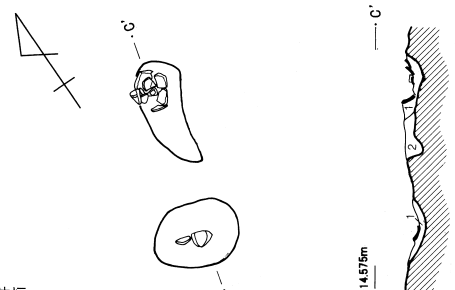
3 号住居跡



炉



埋甕 1・2



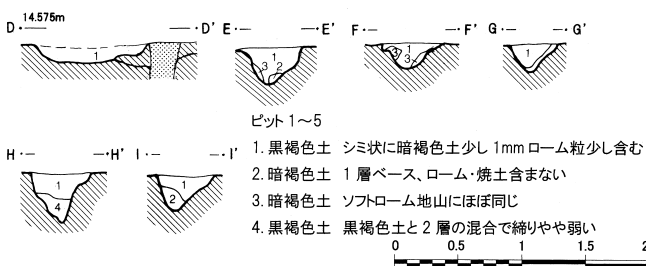
3 号住居跡炉

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土斑状に少し 1mm 大ローム・焼土粒少し含む
- 3 号住居跡埋甕 1・2

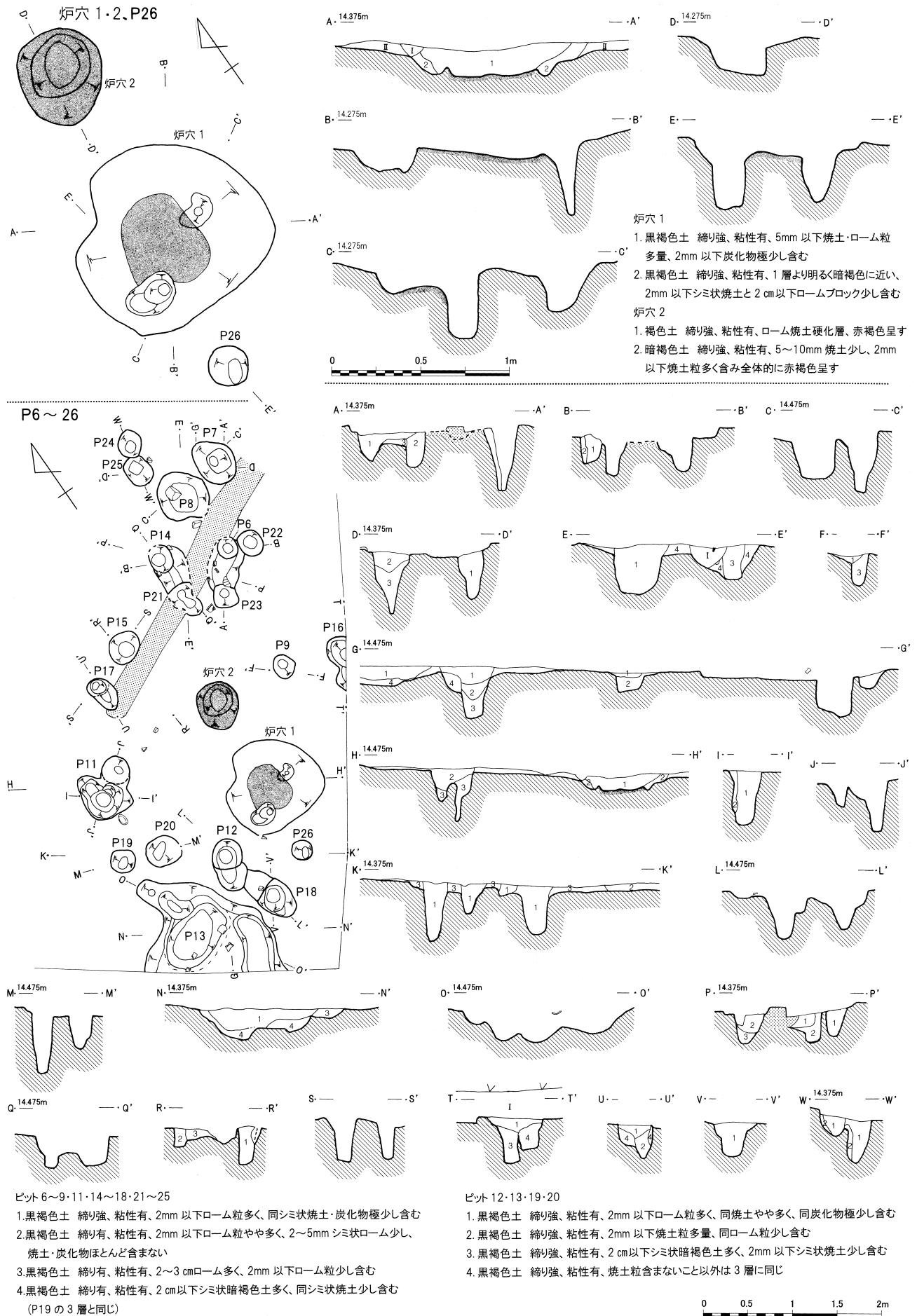
1. 暗褐色土 締り有、粘性有、1mm 以下シミ状ローム・焼土極少し含む
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、ほぼ何も含まない

土坑 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、同焼土粒極少し含む



第55図 浄禅寺跡遺跡第31・32地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、
3 号住居跡・土坑 1・ピット 1 (1/60)、炉・埋甕 (1/30)



第56図 浄禅寺跡遺跡第31地点炉穴 (1/30)、ピット (1/60)

【遺物出土状況】

炉の底部から覆土層に集中する程度で、住居跡床面や覆土層からは僅かに出土するのみである。

【3号住居跡出土遺物】（第57図1～20）

1は埋甕1の深鉢形土器胴部下半から底部で、底径7.5～8cm残存高12.9cmである。地文RL縄文に沈線の懸垂文を幅広に配し、区画内を磨消す。2は埋甕2で底径7.5cm残存高12.6cm、施文方法は埋甕1と同じで、加曽利EⅢ式である。3、4は深鉢形土器の口縁部片で、隆帯と沈線で区画内に地文縄文を施す、加曽利EⅡ式新相。5～6は深鉢形土器の口縁部で地文LR縄文に沈線で「n」状区画を配し、中を磨消す。7～19は地文縄文に幅広沈線間を磨消す、加曽利EⅢ式。20は口縁部無文帯直下に沈線を施す。

②炉跡

炉跡は南側のB区調査区から2基検出した。覆土層の観察から縄文時代に属するとみられる。本調査区南側約3mの第27地点では、縄文時代早期とみられる炉穴5基がまとまって検出されている。本遺構については、表土層から縄文時代早期の条痕文系土器片が出土していることも考慮し、屋外での調査段階では早期の炉穴と考えていた。しかし遺構内からの出土遺物は無く、周辺のピットの配置状況や周辺出土の土器片から、縄文時代中期末から後期にかけての柄鏡型住居跡に伴う炉の可能性も考えられるため今回は炉跡とした。

【炉跡1】平面形態は不整形を呈し、規模は上端径109×100cm、下端径54×45cm、深さ14.7cm、焼土範囲は底部が焼けている。炉内に深さ37.8cmと39.8cmの小ピットが2ヶ所みられる。

【炉跡2】平面形態は円形を呈し、規模は上端径55×46cm、下端径25×20cm、深さ24.1cm、焼土範囲は炉内全面に広がる。

③土坑・ピット（第39表）

土坑は3号住居跡の南側に位置し、縄文時代中期に属するとみられる。

ピットはB区に集中し、ピット6～26は配置から縄文時代中期から後期の住居跡に伴う柱穴の可能性もある。

④3号住居跡以外から出土の縄文土器・石器（第57図21～45）

3号住居跡以外の遺構と遺構外から出土した遺物を一括する。土坑・ピットの覆土層出土の縄文土器・石器も、明らかに遺構本来の時期を示すものではないと判断した。

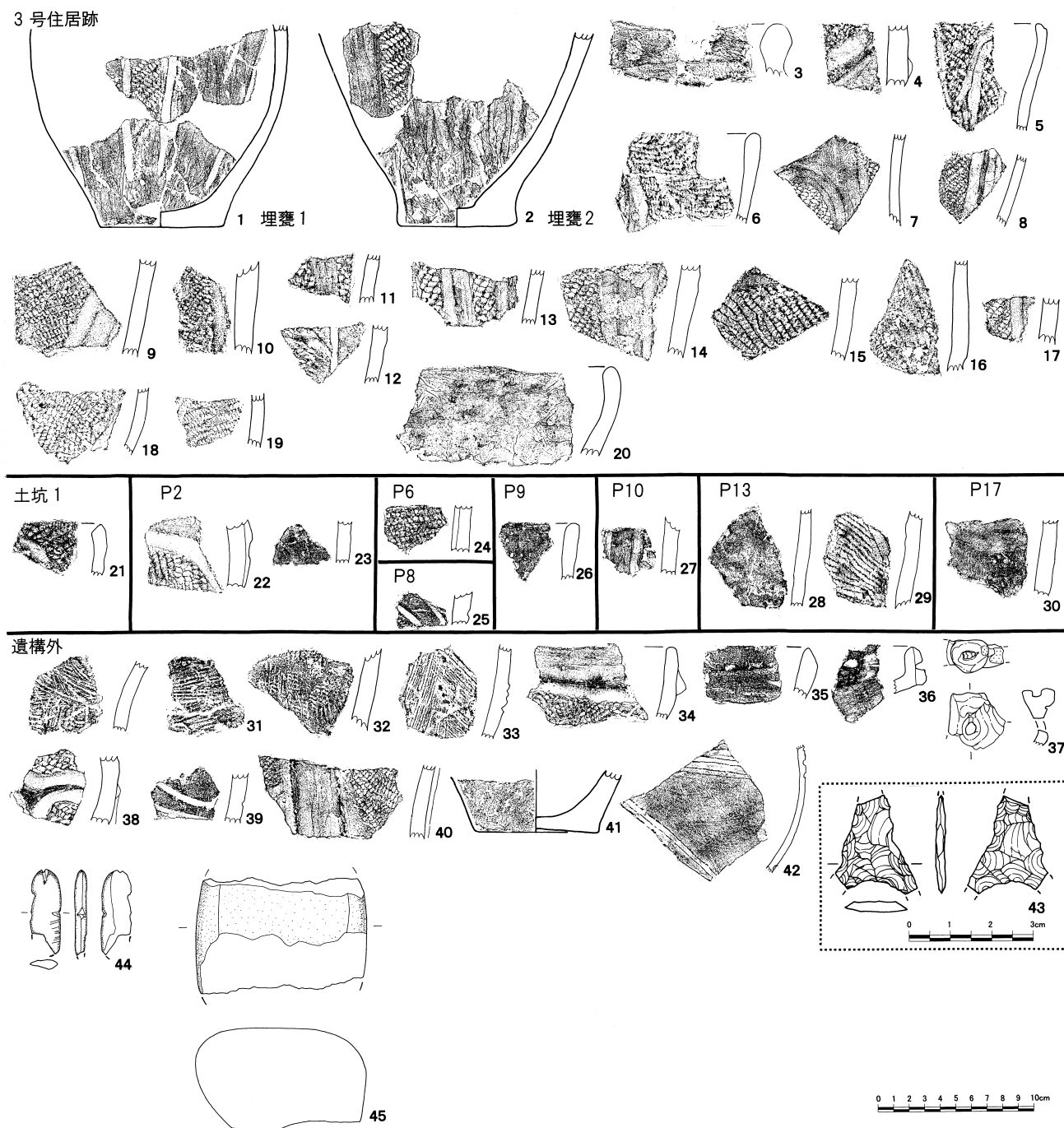
21は深鉢形土器口縁部片で地文LR縄文に沈線を施す加曽利EⅢ式。22は隆帯と沈線の区画内に縄文を施す。23・26・28・30は無文、24はRL縄文、25・27は沈線間を磨消す。29はLR縄文に沈線の懸垂文を施す。22～30は加曽利EⅡ～Ⅲ式。31・32は胎土に繊維を含み、内外面に貝殻条痕文を施す早期の条痕文土器である。33は集合条線に半截竹管の刺突を施す諸磯C式。34は口縁部に横位の断面三角形の隆帯を貼り付け胴部に地文LR縄文を施す、35は無文口縁部片で加曽利EⅣ式。36は内曲する口縁部に円形刺突と沈線を施す堀之内式、37は円孔のある口唇部突起加曽利B2式。38は隆帯と沈線の区画内に縄文を施し、39は沈線間を磨消す。40は地文LR縄文で、断面三角形の微隆起帯懸垂文を貼り付け間を磨り消す加曽利EⅣ式。41は深鉢形土器の底部で底径8cmの加曽利E式。42は内外面に磨きを施し、横位と斜位の沈線文を施す精製土器。

43は頁岩製石鏃で重さ1.32g、44は頁岩製切目石錘で重さ9.15g、45は花崗岩製石棒片で重さ963.63gである。

第39表 浄禅寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表

(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑	楕円形	116×92	91×66	21.1	
P1	楕円形	80×51	10×4	29.1	
P2	円形	49×42	14×13	23.2	3号住居
P3	円形	40×36	10×4	23.7	3号住居
P4	円形	52×45	13×4	44.8	3号住居
P5	円形	39×35	22×16	20.4	3号住居
P6	円形	24×23	11×11	40	
P7	楕円形	56×45	12×9	76.1	
P8	方形	57×56	33×31	47.5	
P9	方形	26×23	11×9	?	
P10	円形	53×47	26×19	24.1	
P11	不整形	74×65	17×16	62.9	
P12	楕円形	58×36	16×15	50.1	
P13	方形	81×50	61×35	29	
P14	円形	32×26	15×14	38.4	
P15	円形	39×33	18×18	51.3	
P16	不明	60×(22)	14×(7)	49.7	
P17	楕円形	42×24	10×7	36.8	
P18	三角形	42×35	15×15	41.5	
P19	円形	28×25	14×9	73.6	
P20	円形	40×33	21×12	38	
P21	瓢箪型	40×30	24×10	33	
P22	円形	29×26	15×14	37.4	
P23	方形	27×26	10×10	50.1	
P24	円形	28×26	13×12	32.4	
P25	方形	34×27	14×13	58.8	
P26	円形	22×22	15×7	27.3	



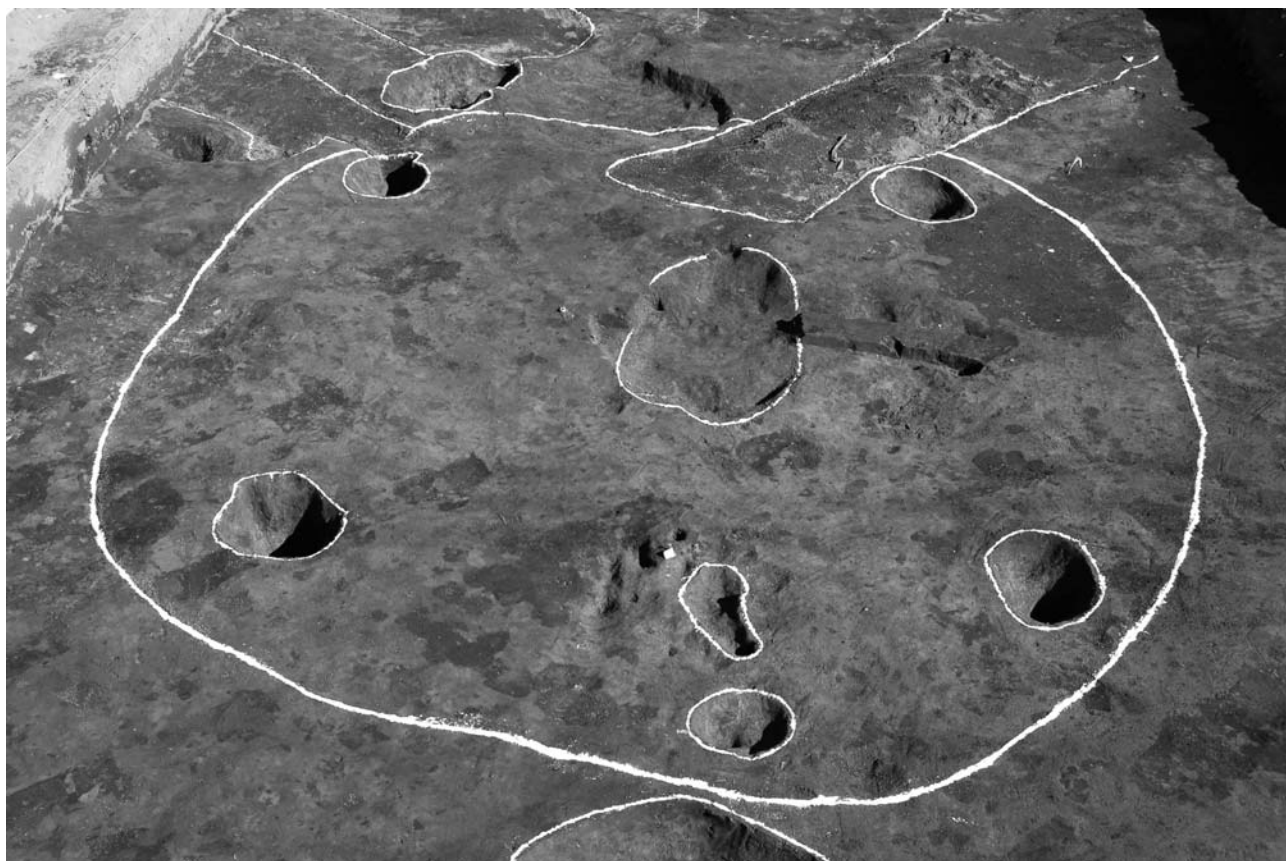
第57図 浄禅寺跡遺跡3号住居跡・土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

VI 浄禅寺跡遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年2月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、東側に隣接する第31点で縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘

調査を実施した。試掘調査は同年2月25日から3月4日まで行なった。幅2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、堀跡1本、ピット1基を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。遺構の確認・検出を行ない、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻して調査を終了した。



浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



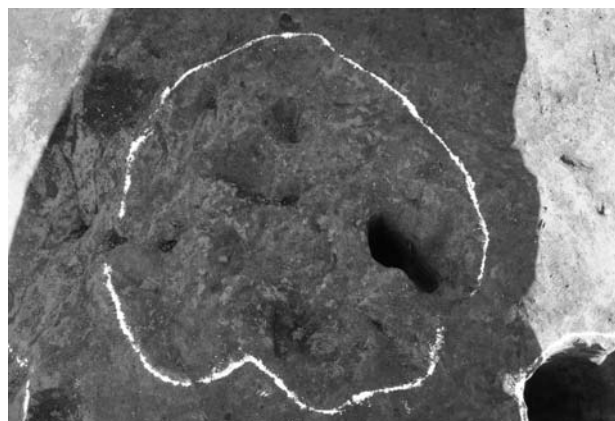
浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



浄禅寺跡遺跡第31地点 炉遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡埋甕



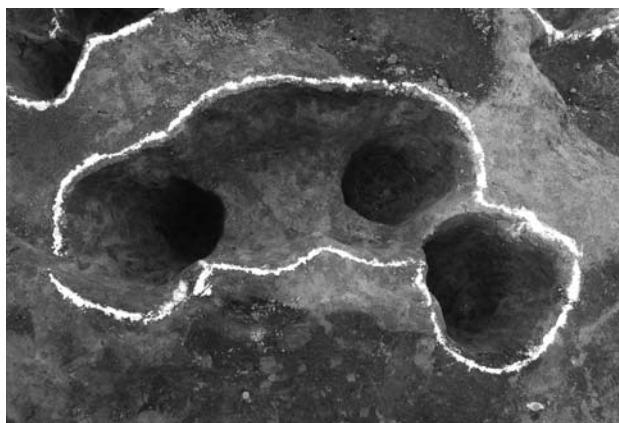
浄禅寺跡遺跡第31地点 炉穴



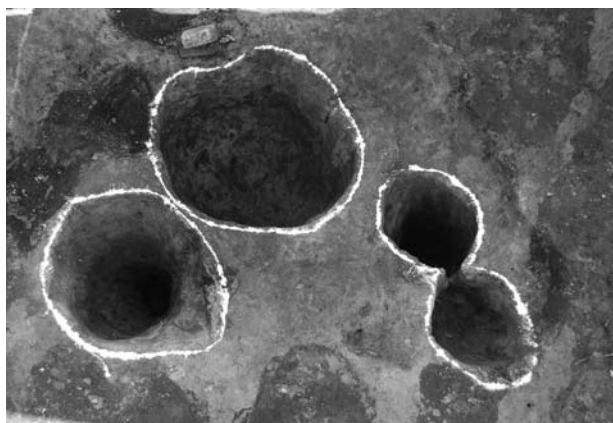
浄禅寺跡遺跡第31地点土坑 1



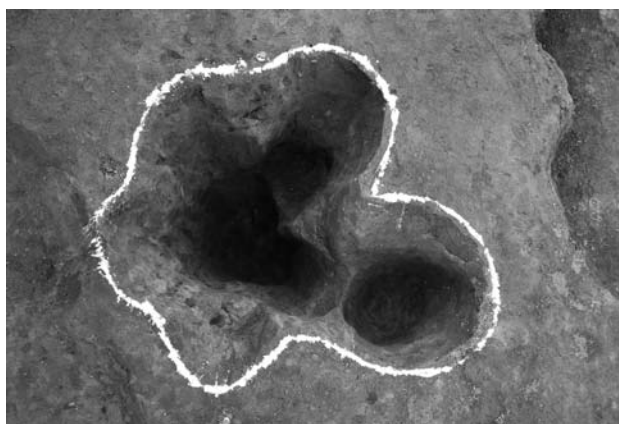
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 6～8・14



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 6・22・23



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 7・8・24・25



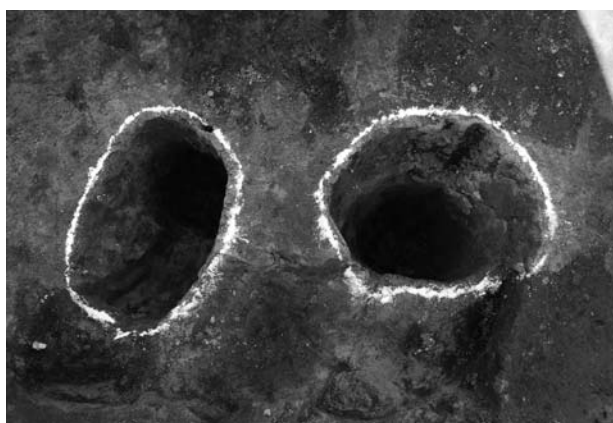
浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 11



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 12・13・18



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 14・21



浄禅寺跡遺跡第31地点ピット 15・17

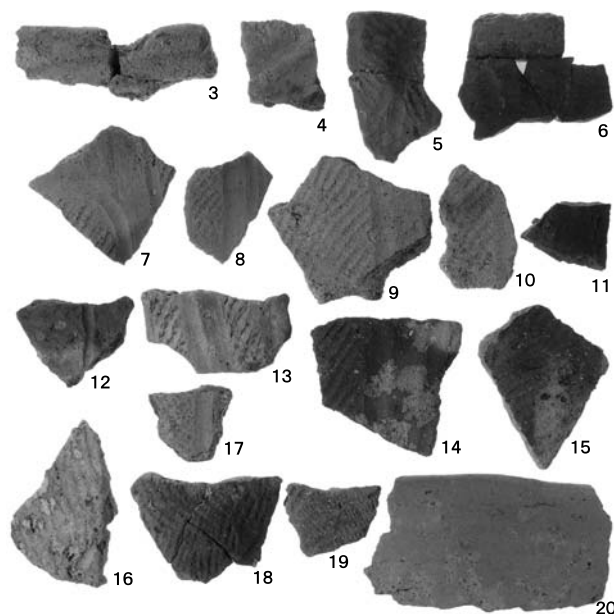
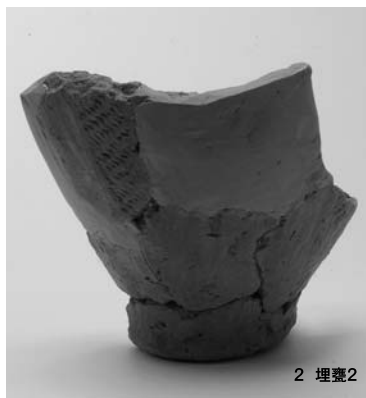


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

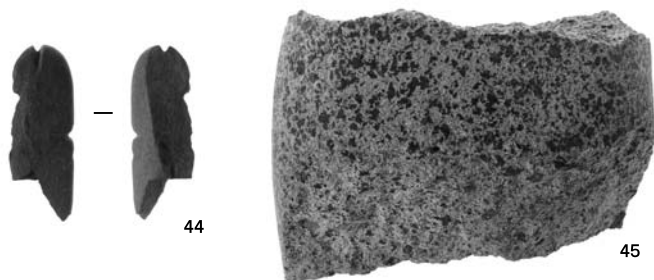
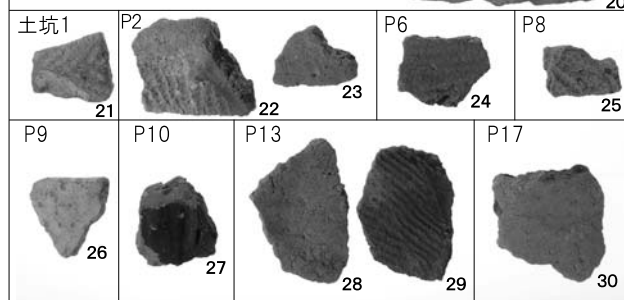
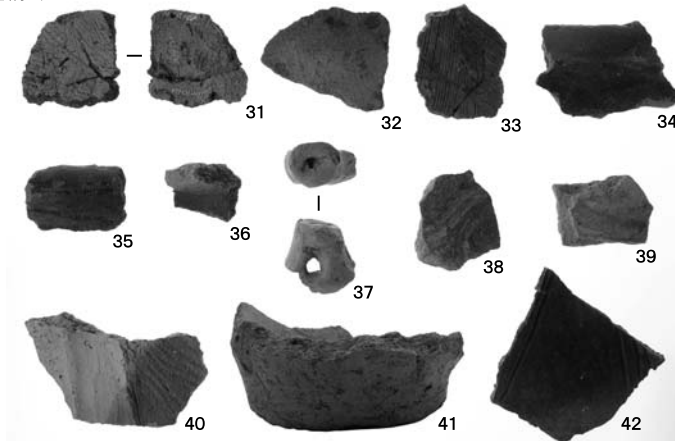


浄禅寺跡遺跡第31地点本調査南側調査区全景

3号住居跡



遺構外





浄禅寺跡遺跡第31地点 3号住居跡



3号住居跡炉遺物出土状況



3号住居跡埋甕出土状況



3号住居跡埋甕 1



3号住居跡埋甕 2